

学校コード F101310100365

注3

設置年度 令和 4年度

計画の区分： 学部の学科の設置

注1

認可

注2

日本医療大学 保健医療学部 臨床工学科

【認可】 設置に係る設置計画履行状況報告書
(改正前大学設置基準適用)

学校法人日本医療大学
令和5年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名	企画法務グループ
職名・氏名	渡邊 真由
電話番号	011-351-6100
(夜間)	011-351-6160 (FAX)
e-mail	houjin-g@jhu.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に

() 書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

保健医療学部

<臨床工学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	8
3. 施設・設備の整備状況、経費	17
4. 既設大学等の状況	18
5. 教員組織の状況	19
6. 附帯事項等に対する履行状況等	38
7. その他全般的事項	40

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人日本医療大学

(2) 大学名

日本医療大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒062-0053

北海道札幌市豊平区月寒東3条11丁目1番50号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(ツシマ ノリアキ) 対馬 徳昭 (平成5年4月)		
学長	(オオタ マコト) 太田 誠 (令和2年4月)		
学部長	(オノ サチコ) 小野 幸子 (令和4年4月)		
学科長等	(チハラ シンヤ) 千原 伸也 (令和4年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和4年度に報告済の内容 → (4)
令和5年度に報告する内容 → (5)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合(令和5年度までの6年間)ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
保健医療学部 臨床工学科 学士(臨床工学)	保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)	4年	60人	2年次 0人 3年次 0人 4年次 0人	240人	-	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。(学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。)

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		平均入学定員超過率(控除後)	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期					
A 入学定員	-	-	-	-	-	-	-	60	-	60	-	-	0.6倍	一倍	0.58倍	一倍	
志願者数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	45	(-)	40	(-)						
受験者数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	42	(-)	40	(-)						
合格者数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	40	(-)	36	(-)						
B 入学者数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	36	(-)	36	(-)						
入学定員超過率 B/A	-	-	-	-	-	-	-	0.60	-	0.60	-						

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
- ・ ()内には、編入学の状況について**外数**で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出**してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「平均入学定員超過率(控除後)」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「-」としてください。
- ・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和6年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、**小数点以下第2位まで**記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
- ・ 「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合は、「-」としてください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	-	-	-	-	-	-	-	-	36	-	44	-	
	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
2 年次			-	-	-	-	-	-	-	-	26	-	
			[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
			(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
3 年次					-	-	-	-	-	-	-	-	
					[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
					(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
4 年次							-	-	-	-	-	-	
							[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
							(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
計	-	-	-	-	-	-	-	-	36	-	70	-	
	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(8)	(-)	

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年生の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学生数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	人	人	平成30年度	人	人	
令和元年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
令和2年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
令和3年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
令和4年度	36人	2人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	2人	0人	学力不足(2人)
令和5年度	70人	0人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	0人	0人	
			令和5年度	0人	0人	
合計		2人		2人	0人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\quad - \quad} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{2}{36} = \boxed{5.55} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{70} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<保健医療学部 臨床工学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎教育科目	人間と生活	心理学	1前	1									1
		生命科学	1後	1									1
		コミュニケーション学	1後	1									1
		倫理学	1前		1								1
		生命倫理	1後		1								1
		医療と哲学	1後		1								1
		人間関係の科学	1前		1								1
		文化人類学	1後		1								1
		医療と社会	1後		1								1
		法学	1前		1								1
		教育学	1前		1								1
		北海道史	1前		1								1
		ボランティア論	2前		1								1
		科学的思考の基盤	物理学(基礎)	1前	1								
	物理学(応用)		1後		1								1
	化学		1前		1								1
	生物学		1後		1								1
	生活と運動		1前	1									1
	健康とスポーツ		1前		1								1
	数学		1前		1								1
	数学(統計学)	1後		1								1	
	語学	日本語表現	1前		1								1
		英語 I	1前	1									1
		英語 II	1後	1									1
		英語 III	3前		1								1
		医療英語	2後	1			1	1					1
		中国語	1後		1								1
	韓国語	2前		1								1	
小計(28科目)			-	10	18	0	1	1	0	0	0	13	
専門基礎教育科目	人体の構造と機能	解剖生理学 I	1前	2			1	1					
		解剖生理学 II	1前	2			1	1					
		解剖生理学演習	1後	1			1	2					
		分子医化学	1後	2			1						
	臨床工学に必要な理工学的基礎	応用数学	1前	1			2						
		機械工学 I	2前	2			1						
		機械工学 II	2後		2		1						
		電気工学 I	1前	2			1						
		電気工学 II	1後	2			1						
		電子工学 I	2前	2			1						
		電子工学 II	2後		2		1						
		材料工学	2前	2									1
		物性工学	1後		2								1
		計測工学	1後	2			1						
		電気工学実習	1後	1			1		1				
		電子工学実習	2前	1			1	2					
		臨床工学応用演習	4通	1			2						
臨床工学	医療総論	1前	1			1						1	
	臨床工学総論	1後	1			1	1	2					
	病理学	2前	2									1	

【令和5年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎教育科目	人間と生活及び社会の理解	心理学	1前	1									1
		生命科学	1後	1									1
		コミュニケーション学	1後	1									1
		倫理学	1前		1								1
		生命倫理	1後		1								1
		医療と哲学	1後		1								1
		人間関係の科学	1前		1								1
		文化人類学	1後		1								1
		医療と社会	1後		1								1
		法学	1前		1								1
		教育学	1前		1								1
		北海道史	1前		1								1
		ボランティア論	2前		1								1
		科学的思考の基盤	物理学(基礎)	1前	1								
	物理学(応用)		1後		1								1
	化学		1前		1								1
	生物学		1後		1								1
	生活と運動		1前	1									1
	健康とスポーツ		1前		1								1
	数学		1前		1								1
	数学(統計学)	1後		1								1	
	語学	日本語表現	1前		1								1
		英語 I	1前	1									1
		英語 II	1後	1									1
		英語 III	3前		1								1
		医療英語	2後	1				1					1
		中国語	1後		1								1
	韓国語	2前		1								1	
小計(28科目)			-	10	18	0	1	0	0	0	0	15	
専門基礎教育科目	人体の構造と機能	解剖生理学 I	1前	2			1	1					1
		解剖生理学 II	1前	2			1	1					1
		解剖生理学演習	1後	1			1	2					1
		分子医化学	1後	2			1						
	臨床工学に必要な理工学的基礎	応用数学	1前	1			2						
		機械工学 I	2前	2			1				1		
		機械工学 II	2後		2		1						
		電気工学 I	1前	2			1				1		
		電気工学 II	1後	2			1				1		
		電子工学 I	2前	2			1				1		
		電子工学 II	2後		2		1				1		
		材料工学	2前	2									1
		物性工学	1後		2								1
		計測工学	1後	2			1						
		電気工学実習	1後	1			1		1		1		
		電子工学実習	2前	1			1	2					
		臨床工学応用演習	4通	1			2				1	1	
臨床工学	医療総論	1前	1			1						1	
	臨床工学総論	1後	1			1	1	2					
	病理学	2前	2									1	

	小計(45科目)	-	68	7	0	5	1	3	1	0	15
	合計(109科目)	-	124	35	0	5	1	3	1	0	15
卒業要件及び履修方法											
<p>必修124単位、基礎科目の選択化網から8単位以上、専門基礎教育科目の選択科目から4単位以上、専門教育科目の選択科目から2単位以上を修得し、138単位以上修得すること。 (履修科目の登録上の上限:45単位(年間))</p>											

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎教育科目	人間と生活	心理学	1前	1								1
		生命科学	1後	1								1
		コミュニケーション学	1後	1								1
		倫理学	1前		1							1
		生命倫理	1後		1							1
		医療と哲学	1後		1							1
		人間関係の科学	1前		1							1
		文化人類学	1後		1							1
		医療と社会	1後		1							1
		法学	1前		1							1
		教育学	1前		1							1
		北海道史	1前		1							1
	ボランティア論	2前		1							1	
	科学的思考の基盤	物理学(基礎)	1前	1								1
		物理学(応用)	1後		1							1
		化学	1前		1							1
		生物学	1後		1							1
		生活と運動	1前	1								1
		健康とスポーツ	1前		1							1
		数学	1前	1								1
		数学(統計学)	1後	1								1
	語学	日本語表現	1前		1							1
		英語 I	1前	1								1
		英語 II	1後	1								1
		英語 III	3前		1							1
		医療英語	2後	1			1					1
		中国語	1後		1							1
	韓国語	2前		1							1	
小計(28科目)		-	10	18	0	1	0	0	0	0	15	
専門基礎教育科目	人と体の構造	解剖生理学 I	1前	2			1			1		
		解剖生理学 II	1前	2			1			1		
		解剖生理学演習	1後	1			1	1		1		
		分子医化学	1後	2								
		臨床工学に必要な理工学的基礎	1前	1			2					
	臨床工学に必要な理工学的基礎	機械工学 I	2前	2			1					
		機械工学 II	2後		2		1					
		電気工学 I	1前	2			1					
		電気工学 II	1後	2			1					
		電子工学 I	2前	2			1					
		電子工学 II	2後		2		1					
		材料工学	2前	2								1
		物性工学	1後		2							1
		計測工学	1後	2			1					
		電気工学実習	1後	1			1		1			
	電子工学実習	2前	1			2						
	臨床工学応用演習	4通	1			2						
	臨床工学に必要な医学的基礎	医療総論	1前	1			1					2
		臨床工学総論	1後	1			1	1	2			
		病理学	2前	2								1
		分子病態生理学	3前	1			1					
		生体防御学	1後	1								1
		微生物学	2後	2								1
		臨床薬理概論	3前	1								1
		公衆衛生学	2後	2								1
	チーム医療	4後	1				1	2				
	臨床工学に必要な医学的基礎	情報処理 I	1前	2			1					
		情報処理 II	1後		2		1		1			
		システム工学	2前	2			1					
		医療情報学	1後		2		1					
		プロジェクトスキル I	2後	1						1		
		プロジェクトスキル II	3後	1			1	1		1		
小計(32科目)		-	41	10	0	4	1	2	1	0	6	
医学生体工	医用工学概論	1後	2			1						
	医用機器学概論 I	1後	2					1				
	医用機器学概論 II	2後	2					1				
	医用工学演習 I	2前	1			2						
	医用工学演習 II	4後	1			2						
	医	医用治療機器学	2前	2				1				
		医用治療機器学演習	4後	1				1				
		医用治療機器学実習	3前	1					2			
		生体計測装置学	2前	4			1					
		生体計測装置学演習	4後	1			1		1			

専門教育科目	一用機器学	生体計測装置学実習	3前	1			1		2							
		循環器治療機器学Ⅰ	2後	1				1								
		循環器治療機器学Ⅱ	3後	2					1							
		消化器治療機器学	2後	1					1						1	
		臨床機器学各論Ⅰ	3後		1				1						1	
		臨床機器学各論Ⅱ	3後		1				1							
		臨床機器学各論Ⅲ	3後		1				1						1	
		臨床機器学各論Ⅳ	3後		1				1						1	
	生体機能代行技術学	生体機能代行装置学Ⅰ	2前	4				1								
		生体機能代行装置学Ⅱ	3後	2			1								1	
		生体機能代行装置学Ⅲ	4前	2			1								1	
		血液透析療法装置学Ⅰ	3前	2			1									
		血液透析療法装置学Ⅱ	4前	2			1									
		血液浄化療法装置学	3後		1		1								1	
		呼吸療法装置学	3後		1			1								
		体外循環療法装置学	3後		1			1								
		生体機能代行装置学実習Ⅰ	2後	1			1	1	2						5	
		生体機能代行装置学実習Ⅱ	3後	2			1	1	2	1					6	
	理学安全管理	医用機器安全管理学Ⅰ	2前	2				1								
		医用機器安全管理学Ⅱ	3前	2					1							
		医用機器安全管理学実習	3後	1			1		2							
		医療安全管理学	4通	2				1								
	関連臨床医学	臨床医学総論Ⅰ	2後	1			1									
		臨床医学総論Ⅱ	3前	1			1									
		臨床医学総論Ⅲ	3前	1			1									
		臨床医学総論Ⅳ	3後	1			1									
		臨床医学総論Ⅴ	3後	1			1									
		臨床医学演習	4通	2			2	1								
	臨床実習	臨床実習	4前	4			5	1	2	1						
	卒業研究	卒業研究	4通	4			5	1	2	1						
		小計(40科目)	-	59	7	0	5	1	2	1	0	15				
		合計(100科目)	-	110	35	0	5	1	2	1	0	15				
	卒業要件及び履修方法															
	<p>必修110単位、基礎科目の選択科目から8単位以上、専門基礎教育科目の選択科目から4単位以上、専門教育科目の選択科目から2単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 (履修科目の登録上の上限:45単位(年間))</p>															

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
70 科目	30 科目	0 科目	100 科目	79 科目 [9]	30 科目 [0]	0 科目 [0]	109 科目 [9]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{100} = \boxed{0}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体			
	校舎敷地	65,249㎡	0㎡	0㎡	65,249㎡				
	運動場用地	9,790㎡	0㎡	0㎡	9,790㎡				
	小 計	75,039㎡	0㎡	0㎡	75,039㎡				
	そ の 他	0㎡	0㎡	0㎡	0㎡				
	合 計	75,039㎡	0㎡	0㎡	75,039㎡				
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体			
		50,089㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	50,089㎡ (0㎡)				
(3) 教 室 等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	月寒本キャンパス (含む大講堂)		
		30室	48室	35室	2室 (補助職員 0人)	情報処理室と共用 (補助職員 0人)			
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数					
		保健医療学部 臨床工学科		12 室					
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機械・器具	標 本		
		〔うち外国書〕冊	〔うち外国書〕種	電子ジャーナル					
				〔うち外国書〕点					
		臨床工学科	495 [70] (559 [73])	14 [12] (14 [12])				11 [11] (11 [11])	21 (24)
計	495 [70] (559 [73])	14 [12] (14 [12])	11 [11] (11 [11])	21 (24)	0 (0)	0 (0)			
(6) 図 書 館		面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		月寒本キャンパス	
		1,670㎡		276席		84,240冊			
(7) 体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				月寒本キャンパス	
		930㎡		スポーツジム					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員1人当たり研究費等	300千円	300千円	図書購入費	10,697千円	2,400千円	2,400千円	
	共同研究費等	3,000千円	3,000千円	設備購入費	87,000千円	0千円	0千円		
	学生1人当たり納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,900千円	1,600千円	1,600千円	1,600千円	—	—		
学生納付金以外の維持方法の概要		寄付金、私立大学等経常費補助金 等							

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和5年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を**赤字で見え消し**修正するとともに、その理由及び報告年度「(5)」を「備考」に**赤字**で記入してください。
なお、昨年度の報告において**赤字で見え消し**した部分については、**見え消しのまま黒字**にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	日本医療大学										平均入学定員超過率0.7倍以下の学科数	4	平均入学定員超過率1.15倍以上の学科数	3	収容定員充足率0.7倍以下の学科数	4	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	0
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考					
保健医療学部	4	510	0	1700	-	0.96	-	1.00	-	-	-	北海道札幌市豊平区月寒東3条11丁目1番50号						
看護学科	4	150	0	550	学士(看護学)	1.05	-	1.03	-	令和3	平成26	同上	令和3年度より定員変更(+50)					
リハビリテーション学科	4	140	0	500	学士(リハ・リ・セラ)	1.25	-	0.96	-	令和5	平成27	同上	令和5年度より定員変更(+20)					
理学療法学専攻	4	100	0	340	学士(リハ・リ・セラ)	1.16	-	1.04	-	令和5	平成27	同上	令和5年度より定員変更(+20)					
作業療法学専攻	4	40	0	160	学士(リハ・リ・セラ)	0.85	-	0.78	-	-	平成27	同上						
診療放射線学科	4	100	0	350	学士(診療放射線学)	1.15	-	1.12	-	令和3	平成28	同上	令和3年度より定員変更(+50)					
臨床検査学科	4	60	0	180	学士(臨床検査学)	1.11	-	1.09	-	-	令和3	同上						
臨床工学科	4	60	0	120	学士(臨床工学)	0.60	-	0.58	-	-	令和4	同上						
総合福祉学部	4	120	0	240	-	0.11	-	0.11	-	-	令和4	北海道札幌市清田区真栄434番地1						
介護福祉マネジメント学科	4	40	0	80	学士(福祉経営学)	0.15	-	0.15	-	-	令和4	同上						
ソーシャルワーク学科	4	80	0	160	学士(社会福祉学)	0.09	-	0.09	-	-	令和4	同上						
通信教育部総合福祉学部 ソーシャルワーク学科	4	100	3年次 100	100	学士(社会福祉学)	0.68	-	0.68	-	-	令和5	北海道札幌市清田区真栄434番地1						
大学全体	4	730	3年次 100	2040	-	0.78	-	0.88	-	-	-	-						

5 教員組織の状況

<保健医療学部 臨床工学科>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	教授	高橋 誠 (72) <令和4年4月> 博士(工学)
		医療英語※ 応用数学※ 機械工学Ⅱ 電子工学実習 臨床工学総論※ 医療情報学 医用工学演習Ⅰ 医用工学演習Ⅱ 臨床実習 卒業研究
専任	教授	中村 孝夫 (66) <令和4年4月> 博士(工学)
		機械工学Ⅰ 電気工学Ⅰ 電気工学Ⅱ 電子工学Ⅰ 電子工学Ⅱ 電子工学実習 臨床工学応用演習 システム工学 医用工学概論 臨床実習 卒業研究
専任	教授	瀧本 将人 (65) <令和4年4月> 博士(医学)
		解剖生理学Ⅰ※ 解剖生理学Ⅱ※ 解剖生理学演習※ 分子医化学 医療総論※ 分子病態生理学 プロジェクトスキルⅡ 臨床医学総論Ⅰ 臨床医学総論Ⅱ 臨床医学総論Ⅲ 臨床医学総論Ⅳ 臨床医学総論Ⅴ 臨床医学演習※ 臨床実習 卒業研究

【令和4年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	教授	高橋 誠 (73) <令和4年4月> 博士(工学)
		医療英語※ 応用数学※ 機械工学Ⅱ 電子工学実習 臨床工学総論※ 医療情報学 医用工学演習Ⅰ 医用工学演習Ⅱ 臨床実習 卒業研究
専任	教授	中村 孝夫 (67) <令和4年4月> 博士(工学)
		機械工学Ⅰ 電気工学Ⅰ 電気工学Ⅱ 電子工学Ⅰ 電子工学Ⅱ 電子工学実習 臨床工学応用演習 システム工学 医用工学概論 臨床実習 卒業研究
専任	教授	瀧本 将人 (66) <令和4年4月> 博士(医学)
		解剖生理学Ⅰ※ 解剖生理学Ⅱ※ 解剖生理学演習※ 分子医化学 医療総論※ 分子病態生理学 プロジェクトスキルⅡ 臨床医学総論Ⅰ 臨床医学総論Ⅱ 臨床医学総論Ⅲ 臨床医学総論Ⅳ 臨床医学総論Ⅴ 臨床医学演習※ 臨床実習 卒業研究

【令和5年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	教授	高橋 誠 (74) <令和4年4月> 博士(工学)
		医療英語※ 応用数学※ 機械工学Ⅱ 電子工学実習 医療情報学 医用工学演習Ⅰ 医用工学演習Ⅱ 卒業研究
専任	教授	中村 孝夫 (68) <令和4年4月> 博士(工学)
		基礎工学演習Ⅰ 基礎工学演習Ⅱ 機械工学Ⅰ 電気工学Ⅰ 電気工学Ⅱ 電子工学Ⅰ 電子工学Ⅱ システム工学 医用工学概論 卒業研究
専任	教授	瀧本 将人 (67) <令和4年4月> 博士(医学)
		解剖生理学Ⅰ※ 解剖生理学Ⅱ※ 解剖生理学演習※ 分子医化学 医療総論※ 分子病態生理学 プロジェクトスキルⅡ 臨床医学総論Ⅰ 臨床医学総論Ⅱ 臨床医学総論Ⅲ 臨床医学総論Ⅳ 臨床医学総論Ⅴ 臨床医学演習※ 卒業研究

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	教授	竹内 文也 (56) <令和4年4月> 博士(工学)
		応用数学※ 計測工学 電気工学実習 臨床工学応用演習 情報処理Ⅰ 情報処理Ⅱ※ 医用工学演習Ⅰ 医用工学演習Ⅱ 生体計測装置学 生体計測装置学演習 生体計測装置学実習 臨床実習 卒業研究
専任	教授	千原 伸也 (49) <令和4年4月> 博士(医学)
		生体機能代行装置学Ⅱ※ 生体機能代行装置学Ⅲ※ 血液透析療法装置学Ⅰ 血液透析療法装置学Ⅱ 血液浄化療法装置学※ 生体機能代行装置学実習Ⅰ※ 生体機能代行装置学実習Ⅱ※ 医用機器安全管理学実習 臨床医学演習※ 臨床実習 卒業研究
専任	准教授	小鷹 文彦 (43) <令和4年4月> 博士(医学)
		医療英語※ 解剖生理学Ⅰ※ 解剖生理学Ⅱ※ 解剖生理学演習※ テーム医療※ プロジェクトスキルⅠ プロジェクトスキルⅡ 生体機能代行装置学実習Ⅱ※ 臨床実習 卒業研究

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	教授	竹内 文也 (57) <令和4年4月> 博士(工学)
		応用数学※ 計測工学 電気工学実習 臨床工学応用演習 情報処理Ⅰ 情報処理Ⅱ※ 医用工学演習Ⅰ 医用工学演習Ⅱ 生体計測装置学 生体計測装置学演習 生体計測装置学実習 臨床実習 卒業研究
専任	教授	千原 伸也 (50) <令和4年4月> 博士(医学)
		生体機能代行装置学Ⅱ※ 生体機能代行装置学Ⅲ※ 血液透析療法装置学Ⅰ 血液透析療法装置学Ⅱ 血液浄化療法装置学※ 生体機能代行装置学実習Ⅰ※ 生体機能代行装置学実習Ⅱ※ 医用機器安全管理学実習 臨床医学演習※ 臨床実習 卒業研究

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	教授	竹内 文也 (58) <令和4年4月> 博士(工学)
		応用数学※ 基礎工学演習Ⅲ 計測工学 電気工学実習 臨床工学応用演習 情報処理Ⅰ 情報処理Ⅱ※ 医用工学演習Ⅰ 医用工学演習Ⅱ 生体計測装置学 生体計測装置学演習 生体計測装置学実習 卒業研究
専任	教授	千原 伸也 (51) <令和4年4月> 博士(医学)
		臨床支援技術学実習※ 臨床支援技術学基礎演習 生体機能代行装置学Ⅱ※ 生体機能代行装置学Ⅲ※ 血液透析療法装置学Ⅰ※ 血液透析療法装置学Ⅱ※ 血液浄化療法装置学※ 生体機能代行装置学演習Ⅱ※ 生体機能代行装置学実習Ⅰ※ 生体機能代行装置学実習Ⅱ※ 医用機器安全管理学実習 臨床医学演習※ 臨床実習 卒業研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	准教授	工藤 元嗣 (41) <令和4年4月> 修士(工学)
		解剖生理学演習※ 臨床工学総論※ チーム医療※ プロジェクトスキルII 医用治療機器学 医用治療機器学演習 生体機能代行装置学I 呼吸療法装置学 体外循環療法装置学 生体機能代行装置学実習I※ 生体機能代行装置学実習II※ 医用機器安全管理学I 医療安全管理学 臨床医学演習※ 臨床実習 卒業研究
専任	講師	齊藤 高志 (48) <令和4年4月> 修士(工学)
		電気工学実習 臨床工学総論※ チーム医療※ 情報処理II※ 医用機器学概論I 医用治療機器学実習 生体計測装置学実習 消化器治療機器学※ 臨床機器学各論II 臨床機器学各論III※ 臨床機器学各論IV※ 生体機能代行装置学実習I※ 生体機能代行装置学実習II※ 医用機器安全管理学II 医用機器安全管理学実習 臨床実習 卒業研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	准教授	工藤 元嗣 (42) <令和4年4月> 修士(工学)
		解剖生理学演習※ 臨床工学総論※ チーム医療※ プロジェクトスキルII 医用治療機器学 医用治療機器学演習 生体機能代行装置学I 呼吸療法装置学 体外循環療法装置学 生体機能代行装置学実習I※ 生体機能代行装置学実習II※ 医用機器安全管理学I 医療安全管理学 臨床医学演習※ 臨床実習 卒業研究
専任	講師	齊藤 高志 (49) <令和4年4月> 修士(工学)
		電気工学実習 臨床工学総論※ チーム医療※ 情報処理II※ 医用機器学概論I 医用治療機器学実習 生体計測装置学実習 消化器治療機器学※ 臨床機器学各論II 臨床機器学各論III※ 臨床機器学各論IV※ 生体機能代行装置学実習I※ 生体機能代行装置学実習II※ 医用機器安全管理学II 医用機器安全管理学実習 臨床実習 卒業研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	准教授	工藤 元嗣 (43) <令和4年4月> 修士(工学)
		解剖生理学II※ 解剖生理学演習※ チーム医療※ プロジェクトスキルII 医用治療機器学 医用治療機器学演習 生体機能代行装置学I 臨床支援技術学基礎演習 生体機能代行装置学I※ 生体機能代行装置学演習I※ 呼吸療法装置学※ 生体機能代行装置学実習I※ 生体機能代行装置学実習II※ 医用機器安全管理学I 医療安全管理学 臨床医学演習※ 臨床実習 卒業研究
専任	講師	齊藤 高志 (50) <令和4年4月> 修士(工学)
		電気工学実習 チーム医療※ 情報処理II※ 医用機器学概論I 医用治療機器学実習 生体計測装置学実習 消化器治療機器学※ 臨床機器学各論II※ 臨床機器学各論III※ 臨床機器学各論IV※ 臨床支援技術学基礎演習 生体機能代行装置学実習I※ 生体機能代行装置学実習II※ 医用機器安全管理学II 医用機器安全管理学実習 臨床実習 卒業研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	講師	斉藤 徳 (44) <令和4年4月> 修士(工学)
		臨床工学総論※ 子一ム医療※ 医用機器学概論Ⅱ 医用治療機器学実習 生体計測装置学演習 生体計測装置学実習 循環器治療機器学Ⅰ 循環器治療機器学Ⅱ 臨床機器学各論Ⅰ※ 生体機能代行装置学実習Ⅰ※ 生体機能代行装置学実習Ⅱ※ 医用機器安全管理学実習 臨床実習 卒業研究
兼任	教授	島本 和明 (74) <令和4年4月> 博士(医学)
		医療総論※
兼任	教授	宮本 篤 (66) <令和6年4月> 博士(薬理学)
		臨床薬理概論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	講師	斉藤 徳 (45) <令和4年4月> 修士(工学)
		臨床工学総論※ 子一ム医療※ 医用機器学概論Ⅱ 医用治療機器学実習 生体計測装置学演習 生体計測装置学実習 循環器治療機器学Ⅰ 循環器治療機器学Ⅱ 臨床機器学各論Ⅰ※ 生体機能代行装置学実習Ⅰ※ 生体機能代行装置学実習Ⅱ※ 医用機器安全管理学実習 臨床実習 卒業研究
専任	助教	高平 昂 (32) <令和4年4月> 修士(工学)
		解剖生理学Ⅰ※ 解剖生理学Ⅱ※ 解剖生理学演習※ プロジェクトスキルⅠ プロジェクトスキルⅡ 生体機能代行装置学実習Ⅱ※ 臨床実習 卒業研究
兼任	教授	島本 和明 (75) <令和4年4月> 博士(医学)
		医療総論※
兼任	教授	宮本 篤 (67) <令和6年4月> 博士(薬理学)
		臨床薬理概論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	講師	斉藤 徳 (46) <令和4年4月> 修士(工学)
		臨床工学総論※ 子一ム医療※ 医用機器学概論Ⅱ 医用治療機器学実習 生体計測装置学演習 生体計測装置学実習 循環器治療機器学Ⅰ 循環器治療機器学Ⅱ※ 臨床機器学各論Ⅰ※ 臨床支援技術学※ 臨床支援技術学基礎演習 生体機能代行装置学実習Ⅰ※ 生体機能代行装置学実習Ⅱ※ 医用機器安全管理学実習 臨床実習 卒業研究
専任	講師	加川宗芳 (44) <令和5年4月> 修士(工学)
		基礎工学演習Ⅰ 基礎工学演習Ⅱ 基礎工学演習Ⅲ 機械工学Ⅰ 電気工学Ⅰ 電気工学Ⅱ 電子工学Ⅰ 電子工学Ⅱ 臨床工学応用演習 医用工学概論 卒業研究
専任	助教	高平 昂 (33) <令和4年4月> 修士(工学)
		臨床工学総論※ 解剖生理学Ⅰ※ 解剖生理学Ⅱ※ 解剖生理学演習※ プロジェクトスキルⅠ プロジェクトスキルⅡ 臨床支援技術学基礎演習 生体機能代行装置学Ⅰ※ 体外循環療法装置学※ 生体機能代行装置学実習Ⅱ※ 臨床実習 卒業研究
兼任	教授	島本 和明 (76) <令和4年4月> 博士(医学)
		医療総論※
兼任	教授	宮本 篤 (68) <令和6年4月> 博士(薬理学)
		臨床薬理概論

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	教授	林 美枝子 (64) ＜令和4年4月＞ 博士(医学)
		文化人類学 医療と社会 北海道史
兼担	教授	松本 真由美 (61) ＜令和4年4月＞ 博士(心理学)
		心理学 人間関係の科学 ボランティア論
兼担	教授	森口 眞衣 (47) ＜令和4年4月＞ 博士(文学)
		倫理学 生命倫理 医療と哲学
兼担	教授	山田 敦士 (44) ＜令和4年4月＞ 博士(文学)
		日本語表現 中国語
兼任	講師	木村 主幸 (68) ＜令和4年4月＞ 博士(医学)
		病理学 生体防御学 微生物学
兼任	講師	志渡 晃一 (66) ＜令和4年4月＞ 博士(医学)
		公衆衛生学
兼任	講師	神谷 奈保子 (66) ＜令和4年4月＞ 博士課程後期課程修了
		教育学 コミュニケーション学
兼任	講師	志保 裕行 (62) ＜令和4年4月＞ 専門学校卒
		化学

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	教授	林 美枝子 (65) ＜令和4年4月＞ 博士(医学)
		文化人類学 医療と社会 北海道史
兼担	教授	松本 真由美 (62) ＜令和4年4月＞ 博士(心理学)
		心理学 人間関係の科学 ボランティア論
兼担	教授	森口 眞衣 (48) ＜令和4年4月＞ 博士(文学)
		倫理学 生命倫理 医療と哲学
兼担	教授	山田 敦士 (45) ＜令和4年4月＞ 博士(文学)
		日本語表現 中国語
兼任	講師	木村 主幸 (69) ＜令和4年4月＞ 博士(医学)
		病理学 生体防御学 微生物学
兼任	講師	志渡 晃一 (67) ＜令和4年4月＞ 博士(医学)
		公衆衛生学
兼任	講師	神谷 奈保子 (67) ＜令和4年4月＞ 博士課程後期課程修了
		教育学 コミュニケーション学
兼任	講師	志保 裕行 (63) ＜令和4年4月＞ 専門学校卒
		化学

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	教授	林 美枝子 (66) ＜令和4年4月＞ 博士(医学)
		文化人類学 医療と社会 北海道史
兼担	教授	松本 真由美 (63) ＜令和4年4月＞ 博士(心理学)
		心理学 人間関係の科学 ボランティア論
兼担	教授	森口 眞衣 (49) ＜令和4年4月＞ 博士(文学)
		倫理学 生命倫理 医療と哲学
兼担	教授	山田 敦士 (46) ＜令和4年4月＞ 博士(文学)
		日本語表現 中国語
兼任	講師	木村 主幸 (70) ＜令和4年4月＞ 博士(医学)
		病理学 生体防御学 微生物学
兼任	講師	志渡 晃一 (68) ＜令和4年4月＞ 博士(医学)
		公衆衛生学
兼任	講師	神谷 奈保子 (68) ＜令和4年4月＞ 博士課程後期課程修了
		教育学 コミュニケーション学
兼任	講師	志保 裕行 (64) ＜令和4年4月＞ 専門学校卒
		化学

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	三瀬 敬治 (61) ＜令和4年4月＞ 博士(医学)
		生命科学 生物学 数学 数学(統計学)
兼任	講師	旗手 俊彦 (60) ＜令和4年4月＞ 学術博士(法学)
		法学
兼任	講師	吉岡 政美 (58) ＜令和5年4月＞ 学士
		生体機能代行装置学実習Ⅰ※
兼任	講師	西村 生哉 (58) ＜令和4年4月＞ 博士(工学)
		材料工学 物性工学
兼任	講師	成田 孝行 (52) ＜令和6年4月＞ 専門士
		臨床機器学各論Ⅲ※
兼任	講師	寺島 斉 (52) ＜令和6年4月＞ 専門士
		生体機能代行装置学実習Ⅱ※
兼任	講師	宗万 孝次 (52) ＜令和6年4月＞ 専門士
		生体機能代行装置学実習Ⅱ※
兼任	講師	銭本 隆行 (52) ＜令和4年4月＞ 修士(社会福祉学)
		医療総論

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	三瀬 敬治 (62) ＜令和4年4月＞ 博士(医学)
		数学 数学(統計学)
兼任	講師	旗手 俊彦 (61) ＜令和4年4月＞ 学術博士(法学)
		法学
兼任	講師	吉岡 政美 (59) ＜令和5年4月＞ 学士
		生体機能代行装置学実習Ⅰ※
兼任	講師	西村 生哉 (59) ＜令和4年4月＞ 博士(工学)
		材料工学 物性工学
兼任	講師	成田 孝行 (53) ＜令和6年4月＞ 専門士
		臨床機器学各論Ⅲ※
兼任	講師	寺島 斉 (53) ＜令和6年4月＞ 専門士
		生体機能代行装置学実習Ⅱ※
兼任	講師	宗万 孝次 (53) ＜令和6年4月＞ 専門士
		生体機能代行装置学実習Ⅱ※
兼任	講師	銭本 隆行 (53) ＜令和4年4月＞ 修士(社会福祉学)
		医療総論

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	三瀬 敬治 (63) ＜令和4年4月＞ 博士(医学)
		数学 数学(統計学)
兼任	講師	旗手 俊彦 (62) ＜令和4年4月＞ 学術博士(法学)
		法学
兼任	講師	吉岡 政美 (60) ＜令和5年4月＞ 学士
		生体機能代行装置学実習Ⅰ※
兼任	講師	西村 生哉 (60) ＜令和4年4月＞ 博士(工学)
		材料工学 物性工学
兼任	講師	成田 孝行 (54) ＜令和6年4月＞ 専門士
		臨床機器学各論Ⅲ※
兼任	講師	寺島 斉 (54) ＜令和6年4月＞ 専門士
		生体機能代行装置学実習Ⅱ※
兼任	講師	宗万 孝次 (54) ＜令和6年4月＞ 専門士
		生体機能代行装置学実習Ⅱ※
兼任	講師	銭本 隆行 (54) ＜令和4年4月＞ 修士(社会福祉学)
		医療総論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	平田 和也 (49) ＜令和6年4月＞ 専門士
		臨床機器学各論Ⅰ※
兼任	講師	木村 吉治 (48) ＜令和6年4月＞ 専門士
		生体機能代行装置学実習Ⅱ※
兼任	講師	大宮 裕樹 (48) ＜令和6年4月＞ 専門士
		生体機能代行装置学実習Ⅱ※
兼任	講師	布施 崇宏 (49) ＜令和5年4月＞ 専門士
		生体機能代行装置学実習Ⅰ※
兼任	講師	奥田 正穂 (45) ＜令和6年4月＞ 専門士
		生体機能代行装置学実習Ⅱ※
兼任	講師	韓 然善 (44) ＜令和5年4月＞ 修士(文学)
		韓国語
兼任	講師	高塚 伸太郎 (42) ＜令和4年4月＞ 修士(工学)
		物理学(基礎) 物理学(応用)
兼任	講師	扇谷 稔 (42) ＜令和5年4月＞ 専門士
		臨床機器学各論Ⅳ※ 生体機能代行装置学実習Ⅰ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	平田 和也 (50) ＜令和6年4月＞ 専門士
		臨床機器学各論Ⅰ※
兼任	講師	木村 吉治 (49) ＜令和6年4月＞ 専門士
		生体機能代行装置学実習Ⅱ※
兼任	講師	大宮 裕樹 (49) ＜令和6年4月＞ 専門士
		生体機能代行装置学実習Ⅱ※
兼任	講師	布施 崇宏 (50) ＜令和5年4月＞ 専門士
		生体機能代行装置学実習Ⅰ※
兼任	講師	奥田 正穂 (46) ＜令和6年4月＞ 専門士
		生体機能代行装置学実習Ⅱ※
兼任	講師	韓 然善 (45) ＜令和5年4月＞ 修士(文学)
		韓国語
兼任	講師	高塚 伸太郎 (43) ＜令和4年4月＞ 修士(工学)
		物理学(基礎) 物理学(応用)
兼任	講師	扇谷 稔 (43) ＜令和5年4月＞ 専門士
		臨床機器学各論Ⅳ※ 生体機能代行装置学実習Ⅰ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	平田 和也 (51) ＜令和6年4月＞ 専門士
		臨床機器学各論Ⅰ※
兼任	講師	木村 吉治 (50) ＜令和6年4月＞ 専門士
		生体機能代行装置学実習Ⅱ※
兼任	講師	大宮 裕樹 (50) ＜令和6年4月＞ 専門士
		生体機能代行装置学実習Ⅱ※
兼任	講師	布施 崇宏 (51) ＜令和5年4月＞ 専門士
		生体機能代行装置学実習Ⅰ※
兼任	講師	奥田 正穂 (47) ＜令和6年4月＞ 専門士
		生体機能代行装置学実習Ⅱ※
兼任	講師	韓 然善 (46) ＜令和5年4月＞ 修士(文学)
		韓国語
兼任	講師	高塚 伸太郎 (44) ＜令和4年4月＞ 修士(工学)
		物理学(基礎) 物理学(応用)
兼任	講師	扇谷 稔 (44) ＜令和5年4月＞ 専門士
		臨床機器学各論Ⅳ※ 生体機能代行装置学実習Ⅱ※ 生体機能代行装置学実習Ⅰ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	金谷 樹 (42) ＜令和6年4月＞ 専門士
		血液浄化療法装置学※ 生体機能代行装置学実習Ⅱ※
兼任	講師	原田 祐輔 (40) ＜令和5年4月＞ 専門士
		生体機能代行装置学実習Ⅰ
兼任	講師	赤間 荘太 (37) ＜令和4年4月＞ 博士課程単位取得後退学
		英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ
兼任	講師	寺島 寿江 (35) ＜令和5年4月＞ 学士
		消化器治療機器学※
兼任	講師	本間 将平 (34) ＜令和5年4月＞ 専門士
		生体機能代行装置学実習Ⅰ※
兼任	講師	岡山 雅哉 (31) ＜令和5年4月＞ 修士(工学)
		生体機能代行装置学実習Ⅰ※
兼任	講師	吉田 晃大 (30) ＜令和6年4月＞ 専門士
		生体機能代行装置学Ⅱ※ 生体機能代行装置学Ⅲ※
兼任	講師	井上 和佳奈 (25) ＜令和4年4月＞ 修士(体育学)
		生活と運動 健康とスポーツ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	金谷 樹 (43) ＜令和6年4月＞ 専門士
		血液浄化療法装置学※ 生体機能代行装置学実習Ⅱ※
兼任	講師	原田 祐輔 (41) ＜令和5年4月＞ 専門士
		生体機能代行装置学実習Ⅰ
兼任	講師	赤間 荘太 (38) ＜令和4年4月＞ 博士課程単位取得後退学
		英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ
兼任	講師	寺島 寿江 (36) ＜令和5年4月＞ 学士
		消化器治療機器学※
兼任	講師	本間 将平 (35) ＜令和5年4月＞ 専門士
		生体機能代行装置学実習Ⅰ※
兼任	講師	岡山 雅哉 (32) ＜令和5年4月＞ 修士(工学)
		生体機能代行装置学実習Ⅰ※
兼任	講師	吉田 晃大 (31) ＜令和6年4月＞ 専門士
		生体機能代行装置学Ⅱ※ 生体機能代行装置学Ⅲ※
兼任	講師	井上 和佳奈 (26) ＜令和4年4月＞ 修士(体育学)
		生活と運動 健康とスポーツ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	金谷 樹 (44) ＜令和6年4月＞ 専門士
		血液浄化療法装置学※ 血液透析療法装置学Ⅰ※ 血液透析療法装置学Ⅱ※ 生体機能代行装置学実習Ⅱ※
兼任	講師	原田 祐輔 (42) ＜令和5年4月＞ 専門士
		生体機能代行装置学実習Ⅰ
兼任	講師	赤間 荘太 (39) ＜令和4年4月＞ 博士課程単位取得後退学
		英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ
兼任	講師	寺島 寿江 (37) ＜令和5年4月＞ 学士
		消化器治療機器学※
兼任	講師	本間 将平 (36) ＜令和5年4月＞ 専門士
		生体機能代行装置学実習Ⅰ※ 生体機能代行装置学演習Ⅰ※
兼任	講師	岡山 雅哉 (33) ＜令和5年4月＞ 修士(工学)
		生体機能代行装置学実習Ⅰ※
兼任	講師	吉田 晃大 (32) ＜令和6年4月＞ 専門士
		生体機能代行装置学Ⅱ※ 生体機能代行装置学Ⅲ※ 臨床工学総論※
兼任	講師	井上 和佳奈 (27) ＜令和4年4月＞ 修士(体育学)
		生活と運動 健康とスポーツ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	植村 進 (51) <令和7年4月> 専門士 生体機能代行装置学演習Ⅱ※
兼任	講師	那須 敏裕 (45) <令和7年4月> 専門士 生体機能代行装置学演習Ⅱ※ 体外循環療法装置学※
兼任	講師	前中 則武 (47) <令和7年4月> 専門士 生体機能代行装置学演習Ⅱ※ 呼吸療法装置学※

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
 - ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、実(実)、実(実))、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「担当授業科目名」の上段に変更後のカリキュラム(新カリ)の授業科目名を記入するとともに、下段に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【令和4年度】

- ・小鷹丈彦准教授辞任により、「解剖生理学Ⅰ」「解剖生理学Ⅱ」「解剖生理学演習」「プロジェクトスキルⅠ」「プロジェクトスキルⅡ」「生体機能代行装置学実習Ⅰ」「臨床実習」「卒業研究」の担当を高平昂助教に変更(令和3年12月AC教員審査済み)。
- ・小鷹丈彦准教授辞任により、「医療英語」の担当を長嶋みさと講師(兼任)に変更。
- ・三瀬敬治講師(兼任)が「生命科学」「生物学」「生化学」の担当を安積順一講師(兼任)に変更。
- ・「医療総論」担当の錢本隆行講師(兼任)が、令和4年4月より日本医療大学の常勤教員となったことで、兼任に変更。

【令和5年度】

- ・臨床工学技士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により中村孝夫教授が「基礎工学演習Ⅰ」「基礎工学演習Ⅱ」を担当(令和4年12月教員審査済み)。
- ・臨床工学技士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により竹内文也教授が「基礎工学演習Ⅲ」を担当(令和4年12月教員審査済み)。
- ・臨床工学技士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により千原伸也教授が「臨床支援技術学実習」「臨床支援技術学基礎演習」「生体機能代行装置学演習Ⅱ」を担当(令和4年12月教員審査済み)。
- ・臨床工学技士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により工藤元嗣准教授が「臨床支援技術学基礎演習」「生体機能代行装置学Ⅰ」「生体機能代行装置学演習Ⅰ」「解剖生理学Ⅱ」を担当(令和4年12月教員審査済み)。
- ・臨床工学技士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により齊藤高志講師が「臨床支援技術学基礎演習」を担当(令和4年12月教員審査済み)。
- ・臨床工学技士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により齊藤徳講師が「臨床支援技術学」「臨床支援技術学基礎演習」を担当(令和4年12月教員審査済み)。
- ・附帯事項の「定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が高い」と指摘を受け、令和5年4月加川講師が就任(令和4年12月教員審査済み)。「機械工学Ⅰ」「電気工学Ⅰ」「電気工学Ⅱ」「電子工学Ⅰ」「電子工学Ⅱ」「臨床工学応用演習」「医用工学概論」「卒業研究」を担当、臨床工学技士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により「基礎工学演習Ⅰ」「基礎工学演習Ⅱ」「基礎工学演習Ⅲ」を担当。
- ・臨床工学技士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により高平昂助教が「臨床支援技術学基礎演習」「生体機能代行装置学Ⅰ」を担当し、より専門性の高い「臨床工学総論」「体外循環療法装置学」を担当(令和4年12月教員審査済み)。
- ・臨床工学技士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により扇谷稔講師(兼任)が「生体機能代行装置学演習Ⅱ」を担当(令和4年12月教員審査済み)。
- ・専門性の高い「血液透析療法装置学Ⅰ」「血液透析療法装置学Ⅱ」の一部をオムニバスにて金谷樹講師(兼任)が担当(令和4年12月教員審査済み)。
- ・より専門性の高い「生体機能代行装置学実習Ⅰ」の一部をオムニバスにて本間将平講師(兼任)が担当(令和4年12月教員審査済み)。
- ・専門性の高い「臨床工学総論」の一部をオムニバスにて吉田晃大講師(兼任)が担当(令和4年12月教員審査済み)。
- ・臨床工学技士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により谷田恵理香講師(兼任)が「臨床支援技術学実習」を担当(令和4年12月教員審査済み)。
- ・臨床工学技士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により「医療コミュニケーション論」を岡村英明講師(兼任)が担当(令和4年12月教員審査済み)。
- ・専門性の高い「臨床工学総論」の一部をオムニバスにて真下泰講師(兼任)が担当(令和4年12月教員審査済み)。
- ・専門性の高い「臨床工学総論」の一部をオムニバスにて斎藤喜博講師(兼任)が担当(令和4年12月教員審査済み)。
- ・臨床工学技士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により田中智貴講師(兼任)が「臨床支援技術学」を担当し、より専門性の高い「循環器治療機器学Ⅱ」の一部をオムニバスにて担当(令和4年12月教員審査済み)。
- ・専門性の高い「臨床機器学各論Ⅱ」の一部をオムニバスにて齋藤大貴講師(兼任)が担当(令和4年12月教員審査済み)。
- ・臨床工学技士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により後藤卓講師(兼任)が「臨床支援技術学」「臨床支援技術学実習」を担当(令和4年12月教員審査済み)。
- ・臨床工学技士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により城宝貴志講師(兼任)が「臨床支援技術学」を担当(令和4年12月教員審査済み)。
- ・臨床工学技士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により玉澤充講師(兼任)が「臨床支援技術学」を担当(令和4年12月教員審査済み)。
- ・臨床工学技士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により増田陽介講師(兼任)が「臨床支援技術学」を担当(令和4年12月教員審査済み)。
- ・臨床工学技士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により小谷祐介講師(兼任)が「臨床支援技術学実習」を担当(令和4年12月教員審査済み)。
- ・臨床工学技士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により陶山真一講師(兼任)が「生体機能代行装置学演習Ⅰ」を担当(令和4年12月教員審査済み)。
- ・臨床工学技士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により雲母公貴講師(兼任)が「生体機能代行装置学演習Ⅰ」を担当(令和4年12月教員審査済み)。
- ・臨床工学技士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により法色まなみ講師(兼任)が「生体機能代行装置学演習Ⅰ」を担当(令和4年12月教員審査済み)。
- ・臨床工学技士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により佐藤大樹講師(兼任)が「生体機能代行装置学演習Ⅰ」を担当(令和4年12月教員審査済み)。
- ・臨床工学技士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により田中佑樹講師(兼任)が「生体機能代行装置学演習Ⅰ」を担当(令和4年12月教員審査済み)。
- ・臨床工学技士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により村田裕宣講師(兼任)が「生体機能代行装置学演習Ⅰ」を担当(令和4年12月教員審査済み)。
- ・臨床工学技士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により大町和講師(兼任)が「生体機能代行装置学演習Ⅰ」を担当(令和4年12月教員審査済み)。
- ・臨床工学技士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により原田智昭講師(兼任)が「生体機能代行装置学演習Ⅰ」を担当(令和4年12月教員審査済み)。
- ・臨床工学技士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により櫻田克己講師(兼任)が「生体機能代行装置学演習Ⅱ」を担当(令和4年12月教員審査済み)。
- ・臨床工学技士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により加藤敏史講師(兼任)が「生体機能代行装置学演習Ⅱ」を担当(令和4年12月教員審査済み)。
- ・臨床工学技士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により菅原誠一講師(兼任)が「生体機能代行装置学演習Ⅱ」を担当(令和4年12月教員審査済み)。
- ・臨床工学技士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により植村進講師(兼任)が「生体機能代行装置学演習Ⅱ」を担当(令和4年12月教員審査済み)。
- ・臨床工学技士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により那須敏裕講師(兼任)が「生体機能代行装置学演習Ⅱ」を担当し、より専門性の高い「体外循環療法装置学」の一部をオムニバスにて担当(令和4年12月教員審査済み)。
- ・臨床工学技士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により前中則武講師(兼任)が「生体機能代行装置学演習Ⅱ」を担当し、より専門性の高い「呼吸療法装置学」の一部をオムニバスにて担当(令和4年12月教員審査済み)。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(A・C教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ A・C教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
 - ・ なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(注) ・ 計画の区分が「学部等連係課程実施基本組織（学科連係課程実施学科）の設置」の場合、大学設置基準第四十二条の三の二（短期大学設置基準第三条の二）に基づく「連係協力学部等（連係協力学科）」の専任教員数について、「(2)-① 設置基準上の必要専任教員数」及び「(2)-② 専任教員等数【大学】」を連係協力学部等（連係協力学科）ごとに別ファイルで作成してください。

(2)-① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
	8
	4
	名

(注) ・ 大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一イ、高等専門学校設置基準第六条第二項及び第三項又は第四項により算出される専任教員数を記入してください。
 ・ 高等専門学校の場合、「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数」欄は「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授・准教授数として、高等専門学校設置基準第八条により算出される必要教授・准教授数を記入してください。

(2)-② 専任教員等数【大学・高専】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計(A)	助手(A')	教授	准教授	講師	助教	計(B)	助手(B')
5	2	2	0	9	0	5	1	3	1	10	0
(5)	(1)	(2)	(1)	(9)	(0)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計(C)	助手(C')	教授	准教授	講師	助教	計(D)	助手(D')
5	1	3	1	10	0	5	1	3	1	10	0
[0]	[Δ1]	[1]	[1]	[1]	[0]	[0]	[Δ1]	[1]	[1]	[1]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告時（上記(B)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(C)）の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65	3	3
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)-④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{10}{9} = \boxed{111.11} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{3}{10} = \boxed{30} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由						
1	准教授	小鷹文彦	R3.12	必修	医療英語※	②	R3.12 健康上の理由により就任辞退						
				必修	解剖生理学Ⅰ※	①							
				必修	解剖生理学Ⅱ※	①							
				必修	解剖生理学演習※	①							
				必修	チーム医療※	①							
				必修	プロジェクトスキルⅠ	①							
				必修	プロジェクトスキルⅡ	①							
				必修	生体機能代行装置学実習Ⅱ※	①							
				必修	臨床実習	①							
			必修	卒業研究	①								
合計 (D)					後任補充状況の集計 (E)								
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)				
1	人	必修	10	科目	必修	9	科目	必修	1	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	10	科目	計	9	科目	計	1	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
		該当なし											
合計 (F)					後任補充状況の集計 (G)								
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)				
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について、記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記(3) -① ・ (3) -② の合計

合計(D) + (F)			後任補充状況の集計(E) + (G)					
辞任等した教員数	担当科目数の合計(a) + (b) + (c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
1 人	必修	10 科目	必修	9 科目	必修	1 科目	必修	0 科目
	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	10 科目	計	9 科目	計	1 科目	計	0 科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{1}{9} = \boxed{11.11} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 令和4年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

人

(注) ・ (3) -①、(3) -②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。
 ・ 令和5年度開設の学科等の場合、(D) + (F)と同数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
		該当なし					
合計				後任補充状況の集計			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

ガイダンス等で周知済み。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

			<p>お友達登録をしていただき、LINEボットを活用して情報を伝えることにしたほか、YouTubeでは、高校生のほか多くの方々にフォローしていただけるように、改善を図ることとした。</p> <p>(4) 1期生が国家試験のステップ試験であるME2種試験があるため、この試験において合格率を90%以上とすることで教育体制の充実をPRポイントとする。</p> <p>高校訪問、オープンキャンパスで臨床工学技士と本学の利点（国家試験に向けた無駄のないカリキュラム、国家資格取得教員の充実など）について啓蒙する。</p> <p>(5) 上記の取り組みに加え、定員充足に係る工夫・施策について、今後も引き続き積極的に検討を行い、継続的に改善に努めることとしている。</p>
--	--	--	---

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。
 - 【令和4年度報告書から記載内容に変更がある場合】
令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「(4)」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(5)」と記載してください。
 - 【令和4年度報告書から記載内容に変更がない場合】
令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「(4) (5)」と記載してください。
 - 【令和5年度から新たに調査対象となった学科等又は令和4年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】
「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(5)」と記載してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入**してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<保健医療学部 臨床工学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>一般入試（後期） 必須 2 科目（「英語」「数学（数学Ⅰ・数学 A）」）・ 選択 1 科目の計 3 科目選択 1 科目については、 次の3科目の中からの選択 「理科（生物基礎）」「化学基礎」「物理基礎」</p>	<p>一般入試（後期） 必須 2 科目（「英語」「数学（数学Ⅰ・数学 A）」）・個 人面接の計 3 科目</p> <p>従来から一般入試（前期）と同様な試験科目で実施してきたところである が、令和 5 年度の入試より、個人面接重視で人柄を見ることに重点を置 き、入学志願者の意欲・適性等を見ていきたいと考えている。そのうえ で、本学の全ての学部学科で、同じレベルの学生を入学させることに主眼 を置くため、必要な知識としての必須 2 科目（「英語」「数学（数学Ⅰ・ 数学 A）」とすることにより、日本医療大学のアドミッションポリシーであ る「本学の教育理念に共鳴し、自らの成長を自己推進していくことができ る学生を求めています。養成する人材が卒業後に札幌地域のみにも貢献す るのではなく、北海道全体、ひいては日本国内、また広く国際的な視野を持 ちつつ活動していくことができる人材を求めます。さらに北海道という地 域特性に鑑み、医療の地域偏在をなくすため、各地域・へき地においても 人々の健康な生活を支援することに貢献できるたくましい人材を募集しま す。」に合致 する学生を入学させたいと考えている。</p>

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）
 及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況 FD委員会【添付資料①】</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>(1) 第1回（2022. 04. 18開催） 教員の参加状況：出席 7名（欠席 1名） (2) 第2回（2022. 05. 09開催） 教員の参加状況：出席 7名（欠席 1名） (3) 第3回（2022. 06. 17開催） 教員の参加状況：出席 7名（欠席 1名） (4) 第4回（2022. 07. 29開催） 教員の参加状況：出席 7名（欠席 1名） (5) 第5回（2022. 08. 22開催） 教員の参加状況：出席 7名（欠席 1名） (6) 第6回（2022. 09. 22開催） 教員の参加状況：出席 6名（欠席 2名）</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ FDセミナーの実施計画について ・ 授業評価アンケートの実施について ・ 2022年度活動計画の確認等について <p>② 実施状況（FD）</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学内FDセミナーの実施 ・ 学外の研修会等への参加 <p>b 実施方法</p>
--

- ・ 学内FDセミナー：対面、オンライン、オンデマンド配信によるハイブリッド形式
- ・ 学外の研修会等：現地参加もしくはオンライン参加

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- | | |
|-----------------------------------|--------------|
| 第1回（2022.05.23）『科学研究費に関するセミナー（1）』 | 教員の参加状況：105名 |
| 第2回（2022.07.22）『科学研究費に関するセミナー（2）』 | 教員の参加状況：102名 |
| 第3回（2022.11.11）『成績評価に関するセミナー』 | 教員の参加状況：91名 |

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・ 研修会を踏まえた授業方法改善の検討、実施

② 実施状況（SD）

a 実施内容

学内SD研修の実施

b 実施方法

対面またはオンデマンド配信含む

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- | | |
|---|--------|
| 第1回（2022.10.13/14）『事務職員のスキル向上の必要性』 | 職員全員参加 |
| 第2回（2022.10.17/11.2）『就業規則についてと仕事の進め方』 | 職員全員参加 |
| 第3回（2022.10.28/31）『発議のイロハ』 | 職員全員参加 |
| 第4回（2022.11.24）『苦情・トラブルへの対応』 | 職員全員参加 |
| 第5回（2022.12.8/12.9）『予算のイロハ』 | 職員全員参加 |
| 第6回（2022.12.22/23）『大学関連の法律と学内規程について』 | 職員全員参加 |
| 第7回（2023.1.19/20）『情報漏洩事故から学ぶ情報資産の取扱い～本学のルール～』 | 職員全員参加 |
| 第8回（2023.1.26/27）『応募から入学までのプロセス』 | 職員全員参加 |
| 第9回（2023.2.7/8）『寄付行為について』 | 職員全員参加 |
| 第10回（2023.2.27/28）『事務局員としての組織』 | 職員全員参加 |
| 第11回（2023.3.24/27）『ハラスメント防止について』 | 職員全員参加 |
| 第12回（2023.3.29/30）『コンプライアンスについて』 | 職員全員参加 |

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・ 有（前期/後期の計2回）

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・ 学内ポータルサイトを使用して結果揭示
- ・ アンケート結果について本学フォーマットを用いて集計し、学長・学部長・学科長と共有している

（注）・「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

・順調に推移している

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・令和5年9月公表予定

b 公表方法

・年次で「日本医療大学 年報」として刊行
・大学ホームページ上に公開予定

③ 認証評価を受ける計画

(専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院については、機関別認証評価と分野別認証評価それぞれの受審計画について記載してください。)

・令和元年度に公益財団法人日本高等教育評価機構の認証評価を受審済み
・次回の認証評価は令和8年度受審予定

(注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和5年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

≪ aで「有」の場合≫

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

≪ aで公表「無」の場合≫

d 公表しない理由 [

]

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、
設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。